

平成 29 年 3 月 14 日

立川市議会

議長 伊藤 幸秀 殿

立川市議会 文教委員会

委員長 伊藤 大輔

## 行政視察報告

このことについて、下記のとおり報告いたします。

### 記

#### 1 視察月日

平成 28 年 10 月 31 日（月）から平成 28 年 11 月 1 日（火）

の 1 泊 2 日

#### 2 視察地及び視察事項

視察都市名	視 察 事 項
岐阜県岐阜市	ICT 教育と校務の情報化について
静岡県浜松市	学校を元気にする委員会について

#### 3 視察の概要及び所感

別紙のとおり

## 平成 28 年立川市議会文教委員会 行政視察報告書

○視察日程:平成 28 年(2016)10 月 31 日(月)14:00～15:30

○視察場所:岐阜市立長森東小学校

○視察内容:ICT 教育と校務の情報化について

○視察メンバー

委員長:伊藤大輔

副委員長:中町聡

委員:瀬順弘

:永元須摩子

:山本みちよ

議会事務局:山口浩士

岐阜市は、木曾、長良、揖斐の三大河川の沖積土によってできた肥沃な濃尾平野の北部から東部にかけての大地では先土器時代の遺物が発見され、縄文、弥生、古墳時代の遺跡も市内全域に広がっている。明治 4 年の廃藩置県により、岐阜県が成立、同 6 年今泉村(現岐阜市)が県庁所在地と定められ、伝統の商業都市とあわせて県政の中心となった。以後、近隣町村を合併し、平成 8 年には中核市として、全国有数の都市となり、産業都市としてあるいは観光都市として中部地方における政治、経済、芸術、文化等の主要都市となった。岐阜駅を降り立った一行は、視察目的地である岐阜市立長森東小学校へ向かった。

次に、実際にタブレットを使った授業を教室内で視察した。

次に、ICT 教育推進事業部から資料とパワーポイントで概要説明を受けた。

タブレット PC4100 台を導入し、9 月に運用開始となった。また、校務パソコンは小学校 47 台が VISTA だった為、Windows8 にし、同時に古いサーバーも新規に入れ替えを行った。5 億 400 万円をかけ 5 年リースで導入した。5 年リースにした理由は、今後の ICT 技術、機器がどのような進化をするのかを見据え 5 年とした。

アクセスポイントは小学校 5 台、中学校 10 台で、ポータブルの WiFi 機器を導入しコストを抑えた。

マイクロソフトなどに依頼し、情報主任への研修を行っている。

今後の ICT の活用方法としては、歴史博物館などにて、歩くことに困難な戦争体験者でも授業に携わってもらい、スカイプを使って、教室と歴史博物館などの場所からリアルタイムで平和学習を予定している。また、何らかの理由で学校へ来れない生徒への一時的な授業も

現在研究中である。

院内学級、岐阜特別支援学校での活用について、タブレット端末の実証研究ではないが、院内学級や岐阜特別支援学校にも整備をし、個々の状況に応じた学びを展開している。

説明を受けて、数名の委員より質問が出た。

Q 瀬 タブレットの充電はどうされているのか。

A 現在は6～8人を1グループにして1台を使い授業を行っている為、使用していない機器があり、充電がもたないなどはない。これから、一人一台40人同時にタブレットを使用するようになって、充電保管庫で一晩充電しておけば、6時間～8時間は持つので、教員とのシフトを入れ替えるなど工夫をすれば可能。

Q 校内LANと職員室用LANは分けられているのか。

A ネットワークは分けなければいけないので、IPアドレスの振り分けで、今年度4500万円で振り分けが完了した。

Q 山本 情報主任とはどういった方が任命されているのか。

A ICTを得意とする教職員が任命されている。現在は技術家庭科の職員が任命されており、年3回の研修を行っている。ソフト面やハード面、セキュリティなどのチェック、使い方に困っている教員への指導なども行っている。

Q 中町 タブレットがフリーズしてしまったりバージョンアップ等の不具合はあるか。

A 導入当初は、タブレットを立ち上げたと同時に動かなくなったり4100台の管理が大変だった。あまり起動させていなかったタブレットを久しぶりにアクセスポイントに接続すると、アップデートが行われてしまい使用できなくなることがあった。Windows10が実際に安定しているのか今の所クエスチョンなところもある。ヘルプデスクを1時から5時までだったが、タブレット導入を機に9時から5時までの体制とした。児童には、ICT機器というのはこういった不具合があって当然なものということを教員も児童も実感することによって、一つの道具なんだという理解をすることも教育だと考えている。

最後に委員長より、今回の視察でえたものを立川でも行われているICT教育の充実に役立たせてゆきたいと御礼の挨拶を申し上げて視察を締めくくった。

## 平成 28 年立川市議会文教委員会 行政視察報告書

○視察日程:平成 28 年(2016)11 月 1 日(火)10:00～12:00

○視察場所:イーステージ浜松

○視察内容:学校を元気にする委員会について

○視察メンバー

委員長:伊藤大輔

副委員長:中町聡

委員:瀬順弘

:永元須摩子

:山本みちよ

議会事務局:山口浩士

浜松市の現在の人口は約 80 万人、静岡県下最大の都市です。市の総面積は 1558 平方キロメートル。東京と大阪という二大都市のほぼ中間地点に位置し日本全体で見てもほぼ真ん中に位置する利便性が、浜松の産業や活気を支えています。

一行は宿泊したホテルから徒歩で 10 分ほどの場所にあるイーステージ浜松へ向かった。浜松市教育委員会教職員課から「学校を元気にする委員会」のこれまでの経過の説明を受ける。

平成 22 年～23 年に教職員の不祥事が続いた経緯がある。不祥事根絶のための 5 つの方策として取り組みを始めた。

### 1・倫理観を高めるための研修の開催

初任者研修、5 年経験者研修、10 年経験者研修、教職員倫理研修等に不祥事根絶のための研修に取り組む。

### 2・学校を元気にするプロジェクトの立ち上げ

①当時の教育長の「不祥事根絶というネガティブな追求をせず、教職員のモチベーションを上げ、学校を元気にするという前向きな策で不祥事を無くしていこう」という考えが基にある「学校を元気にする委員会」

目的:教職員に自覚と使命感を持たせるための学校組織の改善方法を提案する。

内容:学校組織の改善方法、職員集団の在り方等について協議したり、必要に応じて

事例研究や対策検討を行ったりする。協議の内容は各学校、各組織に提案する。

委員構成:校長代表、教頭代表、主幹教諭・教務主任、擁護教諭代表、事務職員代表、栄養教諭・学校栄養職員代表、教育研究会代表・20代・30代教職員、40代・50代教職員で構成する。

アドバイザー:カウンセラー・臨床心理士・医療関係者・PTA代表・弁護士・警察関係者  
20代～50代教職員は立候補で決めた。1期目の時はほとんどの教職員が手上げをしなかったが、2期目の時は20名の教職員が積極的に立候補をした。

## ②教職員悩み事相談システム

目的:教職員の元気を支える。

内容:相談員や保健師に悩み事を相談したり、解決策をとともに探ったりするシステムを構築する。情報を共有する必要がある場合は、プライバシーに配慮しながら事例を各校に紹介する。相談窓口としては電話だけでなくメールも活用する。

教育委員会や市のホームページには特に記載されてはいない。メールでの相談が多い。

相談に対応するのは教育相談支援センターの職員と保健師。電話での対応は毎週水曜日16:00～17:30となっている。

## ③教職員自覚アップ作戦委員会

目的:教職員の自覚や使命感を喚起するための活動を行う。

内容:教職員の自覚や所属意識を高めるための方法を協議し、教職員身分証明書や職員章等のデザイン募集や作成、広報活動などを行う。

## ④教頭研修会

目的:管理職として校長とともに自校の組織を改善する自覚を高める。

内容:事例研究を行ったり、各学校の実態を話し合ったりする中で、職員集団を改善する具体的な方法を探る。

4つの提言とのかかわりを重視して、集まった134のアイデアを分類し、12の優秀アイデアを選出する「教職員の多忙化解消アイデア」を行っている。

28年度の取り組みでは、教職員川柳という、川柳づくりをとおして、職場や教職員に学校現場の「やりがい」をユーモアを交えて伝え合い、学校をさらに元気にするという、笑顔や感動も共有できる浜松市の施策に感心をした。相談窓口の設置、充実など、教職員の悩みが減り、生き活きとした仕事ができることによって、子どもたち学校そのものが元気になっていく発想と取り組みは本市においても大変参考になるものであった。